

財政制度等審議会 財政制度分科会
女性公聴会

「国の財政と未来を考える女性の集い
～次の世代への橋渡し～」

開催報告

平成28年4月28日(木)

公聴会開催の経緯及び概要

開催の経緯

- 女性公聴会開催については、昨年9月、財政制度分科会において、委員からの「女性の目線で財政について考える公聴会の機会を設けてはどうか」との提案を受け、開催することとなったもの。
- その後、昨年より分科会終了後に女性委員が7回集まり、開催のテーマや募集対象等、詳細について検討を行い、この度女性公聴会を開催するに至った。
- 女性公聴会の開催は、平成18年の開催以来10年ぶり、公聴会自体の開催は7年ぶり。

概要

開催日時： 4月22日(金)18:00－19:30 (於 イイノホール)

出席委員： 遠藤典子委員、十河ひろ美委員、武田洋子委員、竹中ナミ委員、田中弥生委員、
中空麻奈委員
麻生太郎財務大臣、大岡敏孝大臣政務官

テーマ：「国の財政と未来を考える女性の集い～次の世代への橋渡し～」

※財政の現状、社会保障の課題等について議論

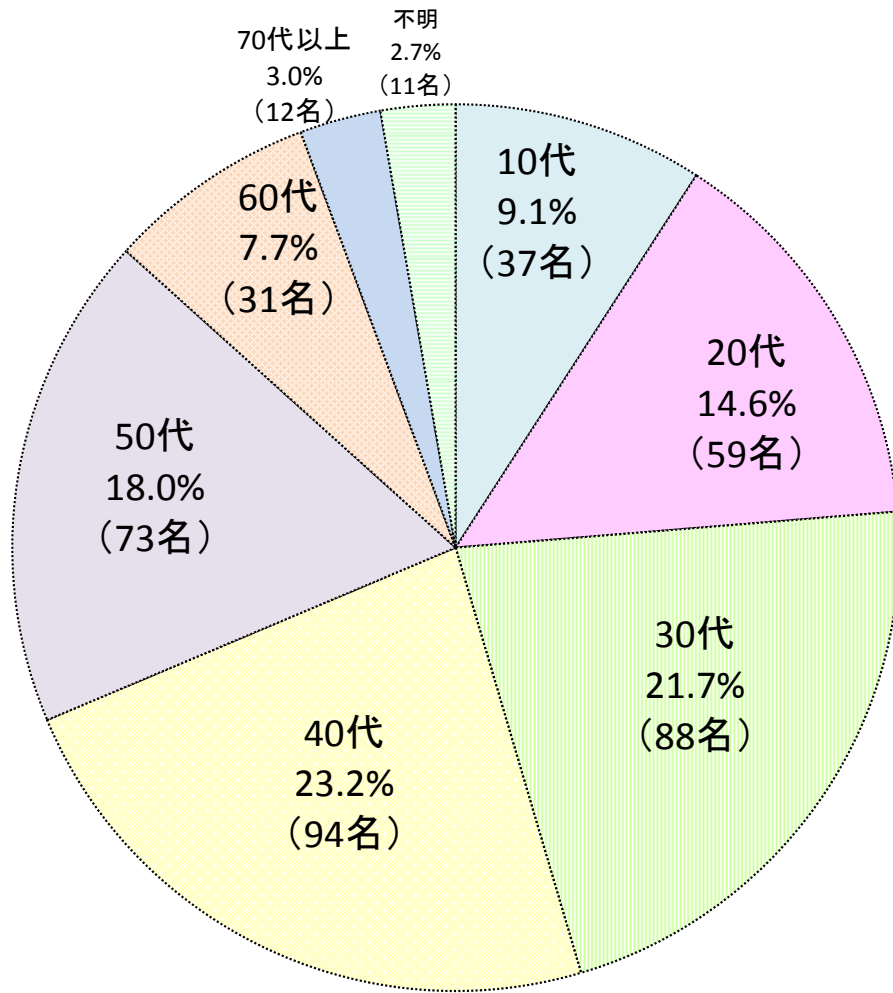
議事の内容： ①大臣開会挨拶、②財政審委員による講演(別紙)、
③意見発表及び意見交換、④参加者との意見交換、⑤まとめ・閉会

当日参加人数： 405名(参考:平成18年開催時の参加者は273名)

※18歳以上の女性を対象に一般公募。

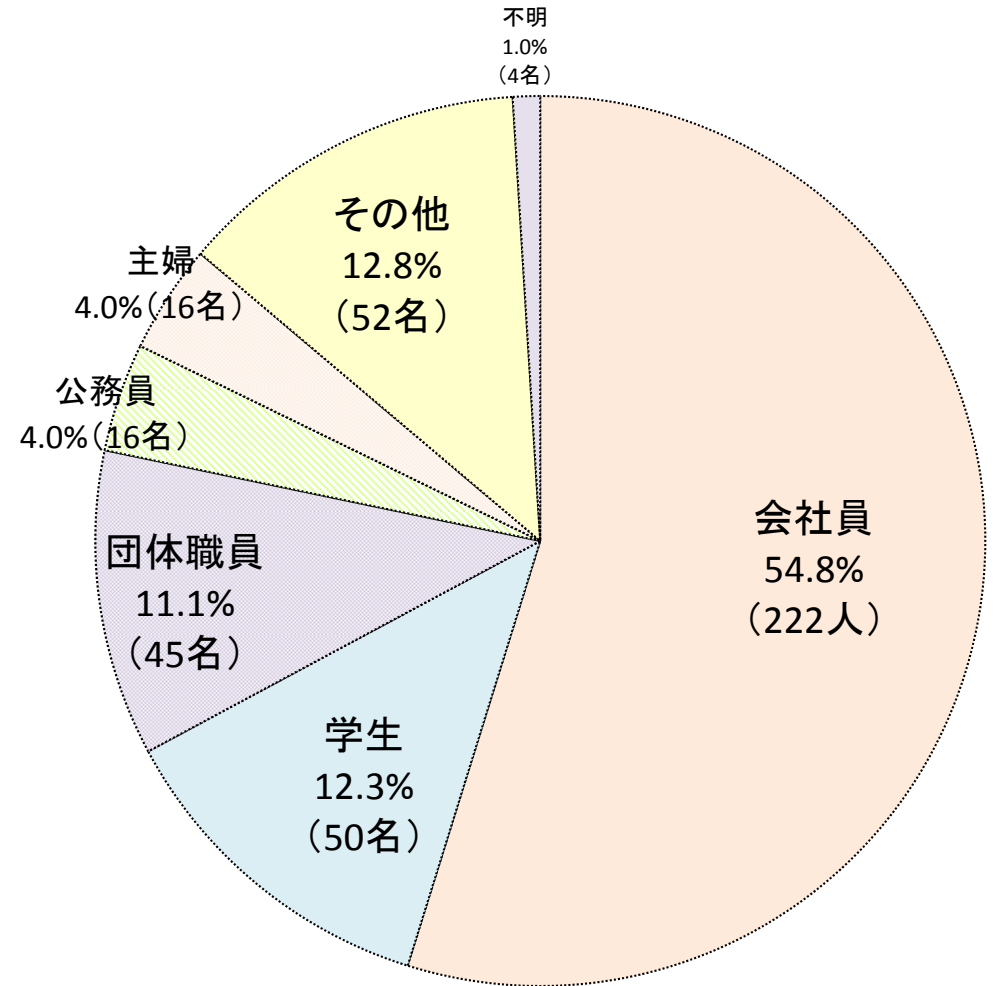
当日の参加者の状況

<年代別>



当日参加者405名

<職業別>



【「その他」の内訳】
「自営業」、「医師」、「パート・アルバイト」等

当日の主な意見・公聴会の様子

当日の主な意見

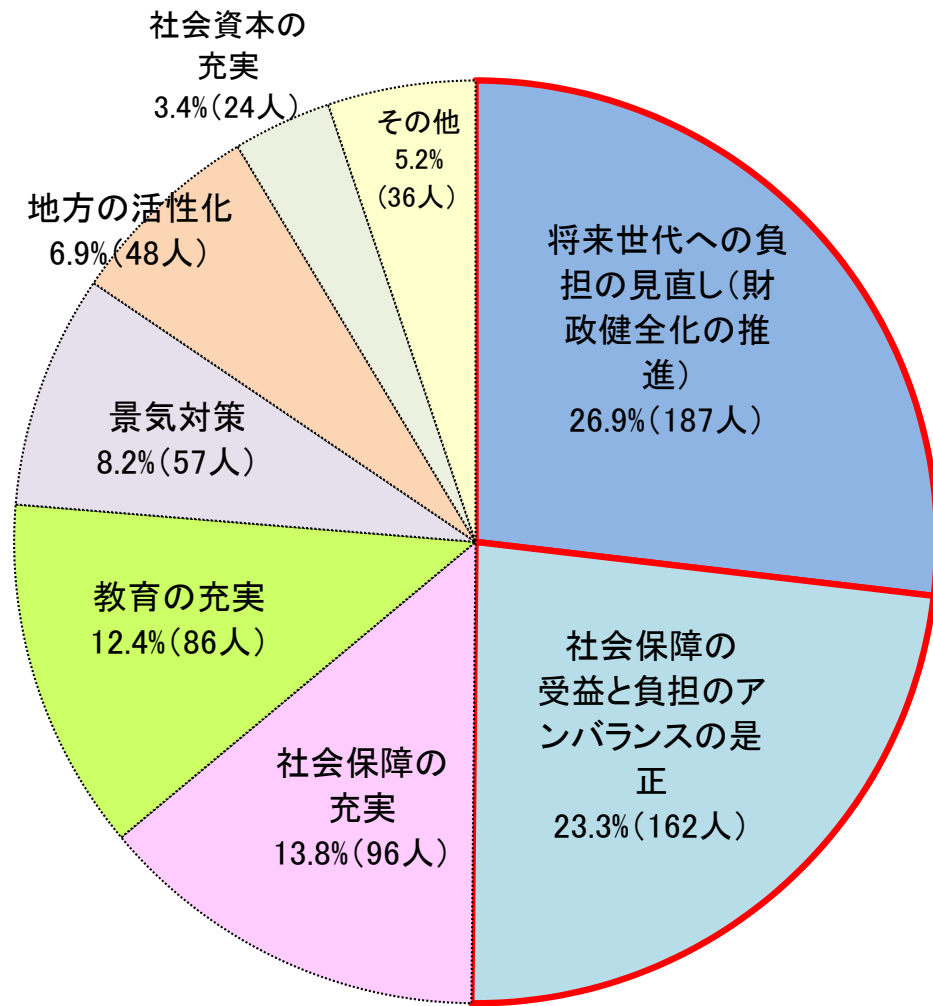
- 日本国憲法では、すべての国民は勤労の権利と義務を負うとし、納税の義務も課している。私は、保育制度の充実、憲法で謳う勤労の権利と義務を保障する社会インフラと考える。そして税金で整えるインフラを右の車輪に、納税の義務を左の車輪の両輪で国を支えることができる。
- 異なった価値観や視点を持った女性が社会で働き、もっと能力を発揮できるようになれば、必ず変わることができる。
- 未来への投資として、日本は何に対して前向きな将来投資をしているのか明らかにしてほしい。現在の問題への対応を優先して40年、50年先への投資が後回しになっている。税金を投入して実現できる理想の日本が明確になれば、もっと税金を負担したい。
- 子ども・子育て支援制度について、国や地方公共団体の支援を受けにくい人々に生活のしわ寄せが集まるのは避けなければいけない。この問題は生活格差と共に子供の教育格差をより広げることにつながる。次の日本を担う子どもたちを育て、かつ自身の職業としての社会貢献がしたい。
- 子ども・子育て支援制度を支える財政についてもっと学び、皆で意見交換ができるようになると良い。これからの日本を考えるために、積極的に学生に考えてもらう必要があると思う。
- 保育士の給料を上げるために財源が必要という説明があったが、消費税が財源なのでいつできるかわからない。そうなる、企業のパワーが大事だと思う。
- 子育て支援がまだ機能していない。私たちの代から、18歳選挙権が認められると思うが、自分たちの意見をどこで発信するのか、政治家にどうすれば意見が届くのか、私たちにも意見を交わす場を与えてほしい。

当日の様子



アンケート集計結果①

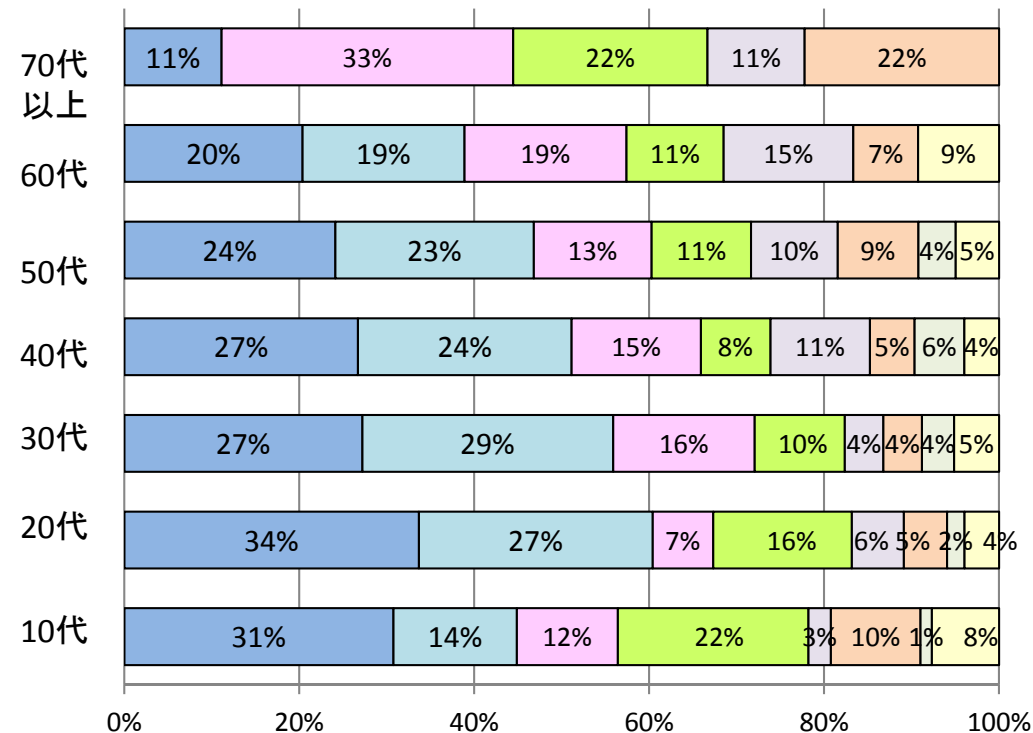
今回の公聴会を踏まえて、今の日本の財政で、重要な政策課題は何だと思いますか。(複数回答可)



【「その他」の主な回答】

- 世代間格差、所得格差の是正。
- 国民と政府との意見交換。財政に関する認識の共有。

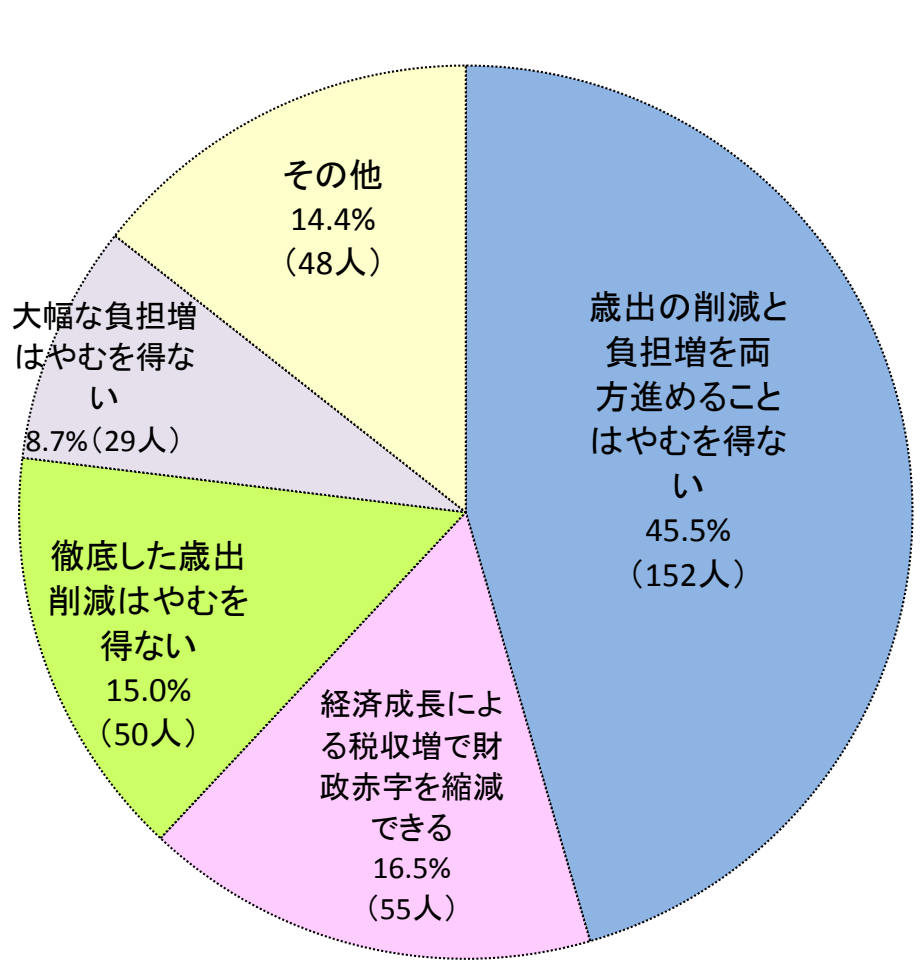
- 将来世代への負担の見直し(財政健全化の推進)
- 社会保障の受益と負担のアンバランスの是正
- 社会保障の充実
- 教育の充実
- 景気対策
- 地方の活性化
- 社会資本の充実
- その他



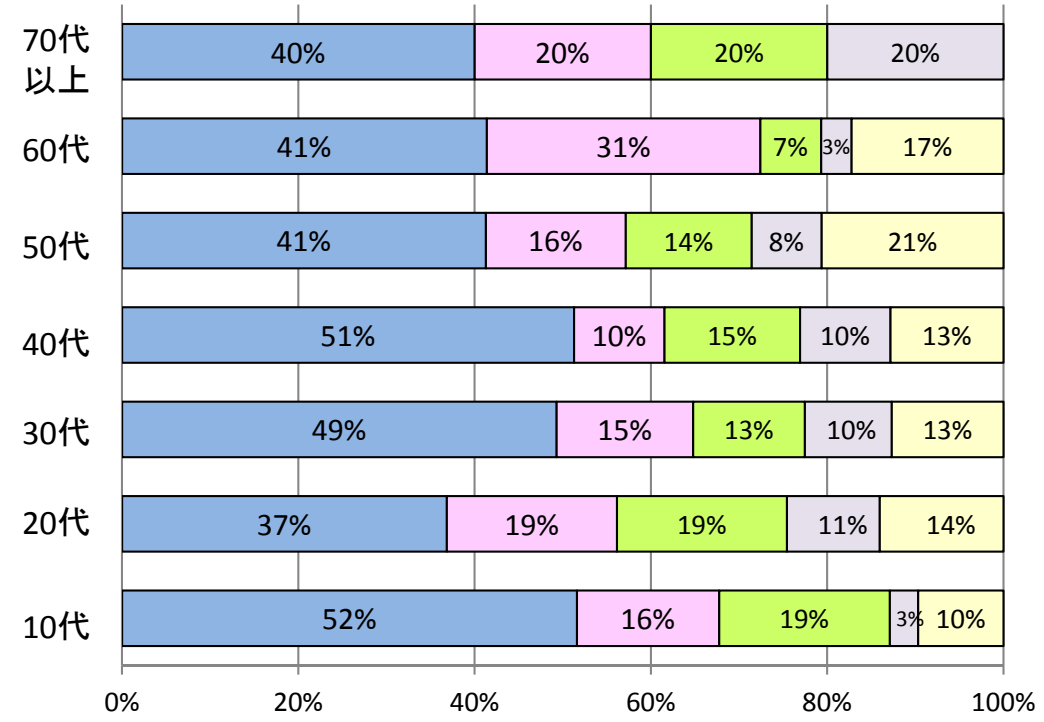
回答数：346名(参加者405名、回収率85.4%)

アンケート集計結果②

将来世代への負担の先送りである財政赤字(借金)を減らすためにはどうすべきだと思いますか。



- 歳出の削減と負担増を両方進めることはやむを得ない
- 経済成長による税収増で財政赤字を縮減できる
- 徹底した歳出削減はやむを得ない
- 大幅な負担増はやむを得ない
- その他

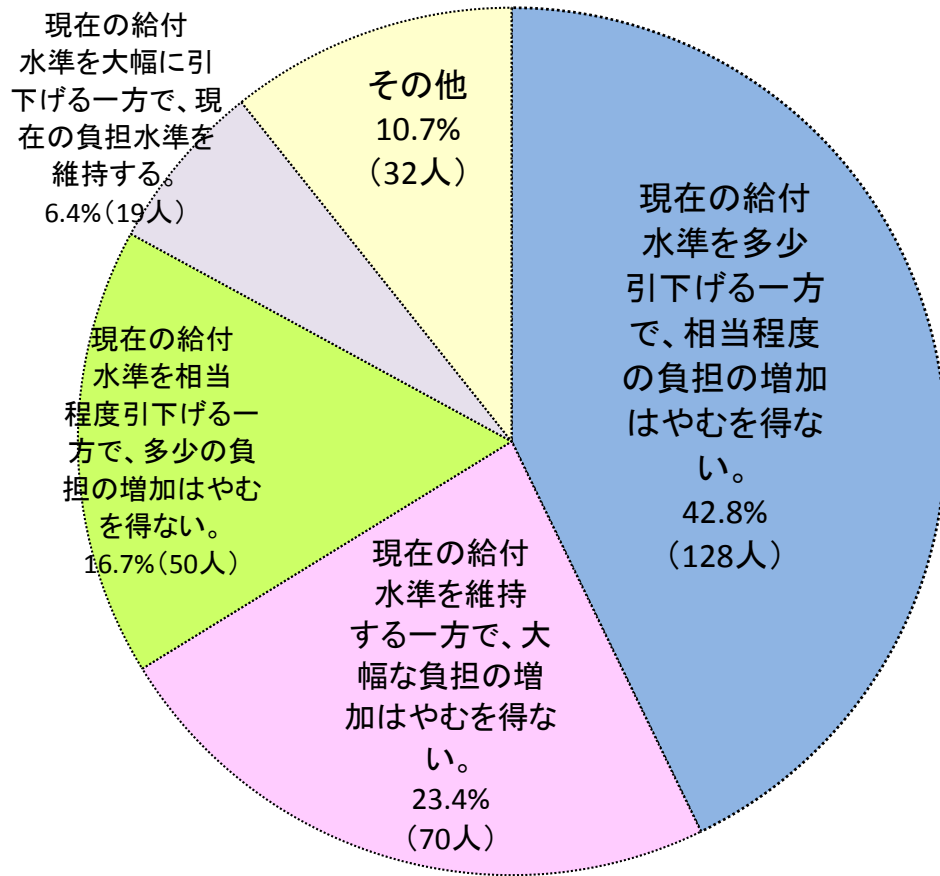


【「その他」の主な回答】

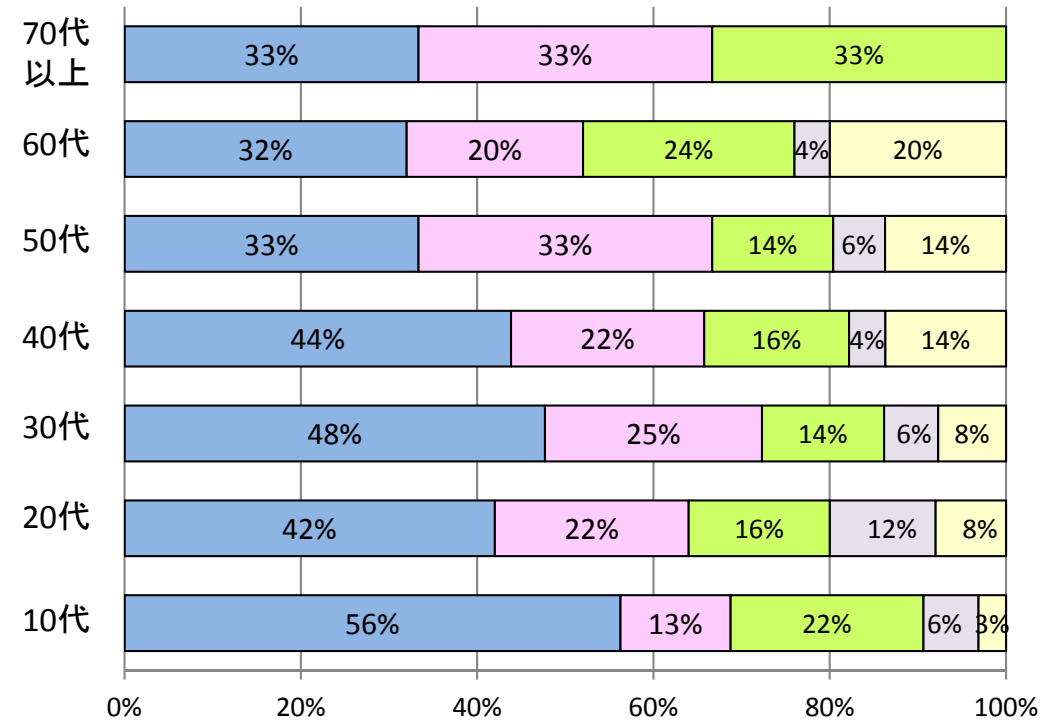
- 議員定数の削減。
- 増税。法人負担の増加。また、適切な税の徴収。

アンケート集計結果③

社会保障(年金、医療等)の受益と負担のアンバランスについて、今後どうあるべきとお考えですか。



- 現在の給付水準を多少引下げ一方で、相当程度の負担の増加はやむを得ない。
- 現在の給付水準を維持する一方で、大幅な負担の増加はやむを得ない。
- 現在の給付水準を相当程度引下げ一方で、多少の負担の増加はやむを得ない。
- 現在の給付水準を大幅に引下げ一方で、現在の負担水準を維持する。
- その他

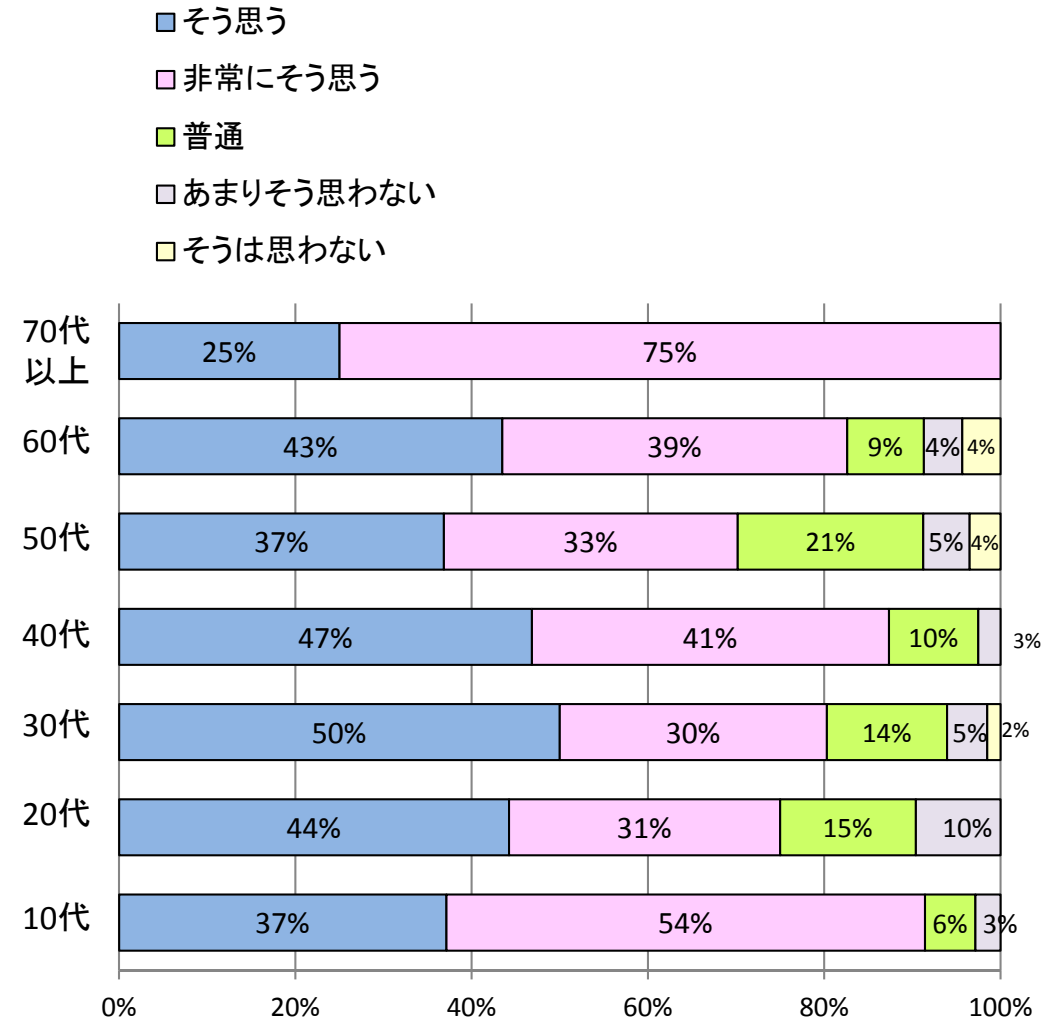
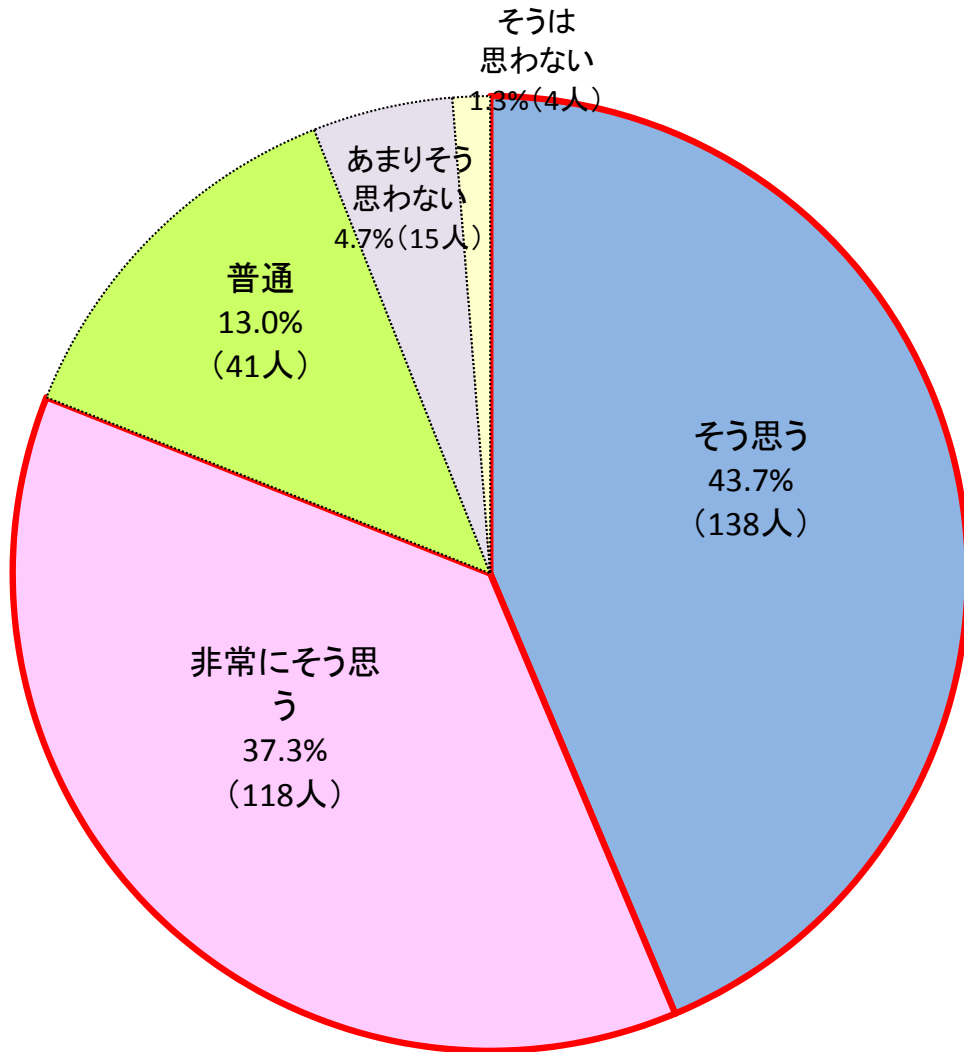


【「その他」の主な回答】

- 現在の給付水準を維持しつつ、負担を増加させない政策を考えるべき。
- 年金や医療等の各分野ごとに、受益と負担のバランスを判断する必要がある。

アンケート集計結果④

本公聴会は、7年ぶりの開催でしたが、財政・社会保障を理解するうえで、有益であったと思われませんか。



アンケート集計結果⑤(主な意見)

- 定期的にこのような機会を開催されることを望みます。【同旨意見多数】
- 本当に財政について考え、意見交換をする場であればもう少し議論の時間を取った方が有意義だったかと思います。【同旨意見多数】
- 子どもを持つことに不安が無い体制を作ってほしい。
- まずは、国民への財政に対する理解、教育を充実させることが必要。
- 2名の高校生のしっかりした考え方を聞き、日本の女性にも明るい未来があると思いました。若い世代の負担にならないように考えていきたい。
- 財政について、これまで深く考えたことはありませんでしたが、これからの日本の未来を考え、日本国民としては一人ひとりが真剣に考えなければならない問題だと強く感じました。
- 参加者の方の率直な意見とともに、政治と国民が一体となって、対話をして考えていくことの大切さを感じました。
- 助成金等、必要ない歳出が多すぎる。もっと適切な歳出を考え、無駄を省く政治をお願いしたい。私たち国民は知恵はいくらでも出します。地に足がついていない歳出が多すぎる。

アンケート集計結果⑤(主な意見)

- 子育て支援が多かったと思う。介護問題や年金、医療の話ももう少し欲しかった。
- 有権者がもっと国のことを考え、発信し、行動することがとても大切だと思いました。
- 税・社会保障、政治などについて、学生の頃から学ぶ機会、議論をするものを授ける事が大切と感じました。
- これからの力を強化する方向に目を向けることが大切だと思いました。貯蓄もある高齢者へのケアよりも“日本”を存続させるためには次世代への投資が最重要。
- 男性にも女性の声を聞いてほしい。
- 働きやすい社会を作る事がとても大切。表面では女性の活躍が必要といわれていますが、そう考えている人はまだ少数だと思います。なぜ必要なのかをもっと発信して頂きたい。
- 必要である税金は払います。無駄なもの不要なものを見直せばもっと借金も減るかもしれない。環境を整えても、この日本で子供を育てたい、子供が育ちたいと思うようでないと少子化は解消されない。
- 最後の大臣の言葉は心強かった。若い人達に借金、負担を残さないように、財政健全化をしっかり考えて集中と選択をしていきたい。